

令和元年度
地域医療学講座年報
— 第 11 号 —



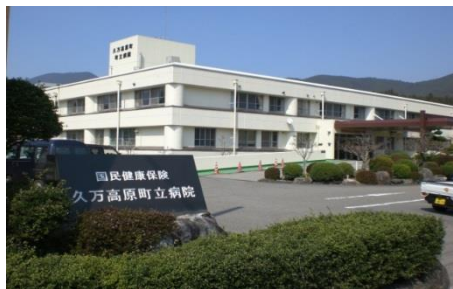
愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座
〒791-0295 愛媛県東温市志津川
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



西予市立野村病院
〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地
TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院
〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地
TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

目 次

- あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一・・・1
- 地域医療学講座の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 久万高原町サテライトセンターでの活動・地域医療学講座 准教授 古川 慎哉・・・3
- 地域医療実習で総合医に触れよう!! 国保一本松病院 嶋本 純也・・・5
- 学外講師による講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 第9回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 地域医療学医科学研究 基礎配属学生の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 第19回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科専門研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 初期研修（地域医療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- 2019年度地域医療学講義内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 2019年度地域医療ワークショップ（地域枠対象）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
- 第5学年臨床実習班名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 業績：原著・総説・症例報告・学会発表・研究会・講演会・その他・・・・・・26
- 講座関連の研究費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
- その他：教育活動・受賞・委員会活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- マスコミ取材・・39
- 編集後記・・40

あいさつ

地域医療学講座 教授 川本 龍一

常日頃から当講座および総合診療科にご支援たまわり、誠に有難うございます。

地域医療学講座はこの11年、学生・研修医教育、診療活動、研究活動を実践してまいりました。学生教育においては、座学では3学年の地域医療学講義を必須科目として25コマを担当しています。多様な学外講師もお招きし、学生に刺激を与えていただいています。地域医療実習では、2019年度5年生から2週間となり、サテライトセンターである久万高原町立病院と西予市立野村病院以外でも宇和島市立津島病院、松野町国保中央診療所、愛媛県立南宇和病院、愛南町国保一本松病院でも快く学生を受け入れていただき、スタッフの方々には日常業務の忙しい中、地域包括ケア活動に関してご指導いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。学生は多職種連携活動によるチーム医療を学ぶことができ、実習指導を受けた卒業生が県内外で活躍されつつあります。

地域卒の学生に対しては、毎週のワークショップやサマーセミナーを通して地域志向の涵養やフォローに努めています。残念ながら学年が上がるにつれて参加者が少なくなり固定化してくのが課題ですが、それでも必ず参加される学生がいることは頼もしい限りです。

大学附属病院では、総合診療科を担当し、教授・准教授・助教2名の4名体制により午前外来の診療活動（5日/週）を実施しています。対象は地域の医療機関や病院内から紹介を受けた患者であり、特に入院の必要な患者については関わりのある診療科への紹介を行っています。数多くの医療機関を回り、診断の難しい患者さんにも少なからず遭遇することがありますが、問診と身体診察を手掛かりに、各科との連携により診断に至った時の達成感は総合診療の醍醐味です。一方でなかなか診断にたどりつかないこともあります。

診療活動では、西予市立野村病院、久万高原町立病院、今治医師会市民病院（休日）、愛媛医療センターなどで診療支援（松山市二次救急）を行っています。各地域で患者の年齢層や病状も異なり、今治市や松山市では南予に比べて明らかに患者の年齢層が若いのが特徴です。

地域での研究活動についてです。現在当講座では、愛媛大学地域協働教育研究支援事業や科研費の採択により予算を得て、学生の地域志向性尺度の開発研究を継続しており、論文として世界に発信しています。講座には3名の社会人大学院生が所属し、地域の病院に勤務しながら臨床研究を行っています。また、当大学には医学部1学年の時期から基礎配属として希望の講座に所属しながら研究活動を行う制度があります。当講座には、現在1学年4名が所属し、地域医療の現場で患者に触れるとともに地域医療ならではの調査を行い、毎年、愛媛プライマリ・ケア研究会や日本プライマリ・ケア学会にて発表しています。

最後にこの場をお借りしまして、お世話になっております学内関係者をはじめ、愛媛県医療対策課、各市町、県内医療機関、そして当講座の地域サテライトセンターの皆様に深く感謝を申し上げます。

地域医療学講座の取り組み

当講座は、地域医療支援センター、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして愛媛県や市町村、西予市地域サテライトセンター、久万高原町地域サテライトセンター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら「地域を舞台に学ぶ」をスローガンとして以下のような取り組みを行っています。

1 医学科学生教育

・学生教育

- 1年生：早期体験実習【必須】：地域枠担当
医科学研究地域医療学講座基礎配属【必須】：4～6名
- 3年生：地域医療学講義【必須】25コマ：全員
愛媛学講義【必須】1コマ：全員
- 4年生：衛生学・公衆衛生学特別講義【必須】1コマ：全員
- 5年生：臨床実習（地域医療実習2週間）【必須】：4～6名
- 6年生：臨床実習（地域医療実習2～4週間）【選択】：1～2名
- 1～6年生：春季・夏季休暇期間中の地域医療合宿【希望】：1～2名

・学生支援

- 地域医療ワークショップ毎週木曜日昼休み（年25回）：地域枠
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー（年1回）：地域枠＋自治医大学生
- 総合診療ワークショップ（年1回）：希望者
- 医学生による診療船 済生丸実習（年2回）：希望者
- 愛南町の医療にふれる会（年1回）：希望者
- 多職種連携ワークショップ（年1回）：希望者

2 医師のキャリア支援活動

- 愛媛大学附属病院総合診療専門研修プログラム：3名所属
- 愛媛大学社会人大学院（地域医療学講座）：3名所属
- 初期臨床研修 地域医療研修（西予市立野村病院）：10名

3 地域医療支援

- 愛媛大学附属病院総合診療科外来
- 西予市立野村病院・久万高原町立病院・愛媛医療センター・今治医師会市民病院の診療支援

久万高原町サテライトセンターでの活動

地域医療学講座 准教授 古川 慎哉

私は、熊木天児先生の後任として、2019年度より久万高原町サテライトセンターでの学生実習を担当させていただきました。

熊木先生の実習プログラムを基に、本年度は外来実習に週2回の超音波検査実習を追加し、菊池明日香先生にもご指導をいただきました。実習中は、基本的に病院内に宿泊しましたので、実習外でのコミュニケーションも大切にしながら学生と時間を共有できたと考えています。また、本年度はカリキュラム変更に伴い、実習時間が増えたため、3月以降は、医学科4年生にも臨床実習の指導をしました。

1. 臨床実習

A. 週間予定

	午前	午後（空き時間に病棟回診）
月曜日	<ul style="list-style-type: none">オリエンテーション、院内紹介プライマリ・ケア学習道場（初診および再診外来診察：OSCE 実践）超音波実習	<ul style="list-style-type: none">プライマリ・ケア学習道場（初診含む：OSCE 実践）→症例振り返り
火曜日	<ul style="list-style-type: none">父二峰診療所 1名外来実習(菊池先生) 2名	<ul style="list-style-type: none">放射線部実習外来看護実習（採血練習）臨床検査室実習
水曜日	<ul style="list-style-type: none">地域消防・救急実習（消防士・救命士）介護実習	<ul style="list-style-type: none">保健センター1名地域包括支援センター1名在宅支援センター1名リハビリ実習
木曜日	<ul style="list-style-type: none">病棟看護実習（血圧測定）退院支援・地域連携もしくは地域巡回・健康サロン	<ul style="list-style-type: none">訪問診療 2名訪問看護 1名
金曜日	<ul style="list-style-type: none">外来実践（問診、OSCE、カルテ記入）超音波実習プライマリ・ケア学習道場外来看護実習（採血実践本番・測定）	<ul style="list-style-type: none">生理検査室：採血持参・検査測定まとめ：症例提示、課題発表

実習テーマとして、熊木先生が重要視されていた「地域包括ケア」・「在宅支援」・「予防医学」を継続し、地域消防・救急実習（消防士・救命救急士による講和等）および地域連携視察実習（保険センター、地域包括支援センター、在宅支援センターでの実習）を行いました。大学病院の実習では経験できない内容のため、学生にとっては印象深いようで、総括や振り返りの中で本実習の良かった点として挙げられ、好評を得ています。

また、町立病院の検査機器の更新により、最新かつ立派な超音波検査機器が導入されましたので、本年度より最新機器を使った検査実習を加えました。最近では、基幹病院において、スクリーニング検査としての超音波検査を研修医自らが行うことが少なくなっており、初診患者や腹痛の主訴患者に対する腹部超音波検査の有用性を感じてもらえる機会になったと考えております。私自身も、町立病院の実習中には脂肪肝、肝嚢胞、腎嚢胞、憩室炎、虫垂炎、胆嚢炎、前立腺肥大による尿閉の症例に加えて、胆管がんによる肝内胆管拡張例、大腸がんによる腸管浮腫・陥頓例などを学生とともに経験することができました。

学生からは座学との違いを実感する声が多く聞かれ、自らが問診および診察することに加えて、自らが検査することで、より実践的な臨床実習になったと考えています。

B. 実習課題：

a) 実習レポート：毎日付けている記録を基に、実習を通して感じたことをまとめる。

レポートからは、将来の地域医療を担う世代の思いが伝わり、彼らの実習後の熱いその思いが、愛媛の地域医療をよりよいものに変えてくれるきっかけになるかもしれません。

b) 病棟症例実習・検討会：自分自身が苦手とする疾患、将来希望する診療科に関連する疾患、得意とする疾患、以上3つの目線で、1週間の外来や病棟、もしくは訪問診療で経験した症例の中から、学生自ら実習または検討する症例を選ぶ。また、疾病に注目するだけでなく、医療全体、そして患者さんを1人の人間として理解する重要性を考慮した考察をする。

c) Power Point 発表会：「田舎では最新の医療に取り残されていく」という先入観を払拭するためにも、**common disease** および症候学に関するスライド発表を継続。具体的には、内科外来マニュアルを中心に教材から自由にテーマを選び、まとめる。使用教材；**In the Clinic**、総合診療アップデート

本実習を通して、地域医療の魅力を改めて実感すると共に、地域医療および総合診療の難しさを痛感した1年となりました。多様で複雑な患者さんを診るためには、多様なニーズがあり、その結果として多様な経験をした医師が地域医療にかかわる必要もあるとも感じています。

また、本実習は、久万高原町立病院 松木克之院長、近藤誠司先生、濱田徹先生をはじめ、外科の鈴木偉一先生や院内外の多くのスタッフの皆さまのご理解とご尽力によるものです。地域医療学講座にとって久万のサテライトセンターは臨床実習の本丸であります。本年も無事に臨床実習を終えることができましたこと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

「地域医療実習で総合医に触れよう!!」

国保一本松病院 副院長 嶋本 純也

「医学知識はスマートフォンで確認、経験は地域医療実習ですべきです。」愛媛県最南端の国保一本松病院実習担当医として学生実習に臨む全ての将来の医師へ伝えております。時代と共に学問としての医学のあり方も変容を遂げてきております。医学的知識は、携帯電話のアプリケーションからエビデンスが集積された最新のものが本として出版されたものよりも多くの情報を提供し、共有できるようになりました。診断すら AI (artificial intelligence: 人工知能) で行い、抗生剤の種類はガイドラインに記載がされ、ともすれば一般の方でも米国の Nurse Practitioner の様に医師同様の知識や経験を持てるのではないかと考えることも増えました。医師にしかできないものは何か、医師のプロフェッショナルリズムとは一体何のかを追求し地域医療実習のカリキュラムの中で次世代の医師達へメッセージを伝えております。「人を診る」にあたり医師として診断や治療はできて当然であり、その人を取り囲む様々なベクトル因子を勘案できるような医師の養成を心掛けております。一人の生きる社会、人間関係、経済環境、時間空間的な一人の歴史と未来、その交錯するベクトルのどこに総合医として関われるかを意識して地域医療実習に臨んで頂くと楽しみが増すのではないかと考えております。希少疾患などは高度医療機関で学び、地域医療実習では本やスマートフォンでは決して学べない手技、患者さんの反応や行動科学などを、ぜひ経験して頂きたいと考えております。地域医療実習の時間が長いほど地域医療に従事する医師が増えるため今後ますますの当講座の発展を微力ながら支えていきたいと思っております。最後になりますが、わざわざ愛媛県の最南端まで実習に来る特長について言及しておきます。当一本松病院のプログラムでは実習で学んだことや手技、臨床疑問、事前のオリエンテーションを場所時間を問わず共有できるオンラインツールで提供すること、0-100 歳まで内科、外傷、小児科など科を問わず診療にあたり、地域連携を兼ねてカリキュラムに組み込んだ県立南宇和病院での実習で重症救急患者の初期対応を学ぶこと、また病院という白い箱を飛び出し地域予防科学を経験できることです。病院に来れば患者ですが、当院では「患者」になる前の「人」も診ます。ぜひ皆様と協力し良き医師の養成に努めていきたい所存です。

2008 年 自治医科大学医学部卒

愛媛県南予地方を中心に研修、松野中央診療所副所長勤務

2016 年 自治医科大学さいたま医療センター心臓麻酔研修後

2016 年 内海診療所所長

2017 年 Harvard T.H. Chan School of Public Health

Principles and Practice of Clinical Research

2018 年 United States Naval Hospital Yokosuka Fellow

2019 年 国保一本松病院 副院長

2019 年 Rollins School of Public Health /

Emory University Executive MPH Program Student



学外講師による講義

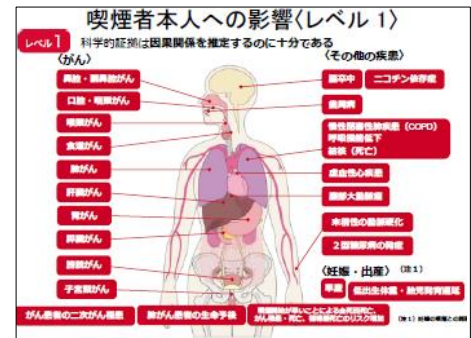
「高齢者医療と福祉」(2019年10月24日、東温市) 綾川町国民健康保健陶病院 院長 大原 昌樹先生

先生ご自身が地域の第一線で取り組んでいる在宅医療について具体的な事例を交えながらわかりやすく解説いただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。地域包括ケアの先進的取り組みはとても参考になるお話でした。



「医学生として知っておきたい禁煙学」(2019年11月29日、東温市) かとうクリニック 院長 加藤 正隆先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みに関して海外事例を交えながらわかりやすくご講義いただきました。先生は外来診療、医師過活動など幅広い活動しつつ禁煙普及に努めており、いつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿に先生の熱意と息込みが感じられました。



「地域医療における病院運営と高齢者ケア」(2019年12月20日、東温市) 済生会松山病院 院長 宮岡 弘明先生

済生会松山病院での様々な取り組みについてご紹介いただきました。済生丸による離島医療については、毎年地域医療実習の一環として乗船させていただいています。離島：宇和海の釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。さらには地域医療を担う医師養成として、総合診療のマインドを持った専門医を養成する取り組み、救急病院のメリットを生かしたローテート方式についてもご紹介いただきました。



「地域医療における心のケア」(2020年1月10日、東温市)

愛媛県立中央病院東洋医学研究所 所長 山岡 傅一朗先生

山岡先生は、学生時代から東洋医学を学び、現在は後継者育成に努める傍ら生薬や鍼の効果についても研究活動をされています。

中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行いました。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、鍼灸の理論や方法を交えながら山岡先生ならではのユニークな講義でした。



「バングラデシュでの医療活動」(2020年1月23日、東温市)

医療法人鶯友会牧病院 宮川 眞一先生

子供の頃の岩村 昇先生との出会いやパキスタンでの中村医師との出会いが先生の現在の活動につながっています。関西学院大学に入学、学生時代にバングラデシュに赴き悲惨な状況を体験したお話。医学部卒業後は、福岡徳洲会病院で研修、その後JOCS日本キリスト教海外医療協会に参加しバングラデッシュでの医療活動に従事。ダッカ人質テロ事件やロヒンギャ難民問題などについて貧困や格差、人種差別などが背景にあることを教えていただきました。社会的企業(無担保で企業するソーシャルビジネス)や社会的貢献(Table for Two)についても現地の前向きな取り組みを紹介されました。



地域医療教育活動

現場が見える～新春スペシャル～（2019年2月16～17日、東温市）

家庭医療や総合診療にて各地で活躍する愛媛大学医学部卒業生の先生方からその活動報告と将来選択に関するレクチャーを開催しました。

東京ベイ・浦安市川医療センターの東野 誠先生、岡山家庭医療センター・奈義ファミリークリニックの山内 祐輔先生、愛媛大学病院から地域医療学講座：川本 龍一先生、熊木 天児先生、救急航空医学講座：佐藤 格夫先生が参加。

初日には、佐藤先生からドクターヘリに関する活動を交えた救急医療のノウハウと醍醐味に関する講演、さらに熊木先生からは地域の現場で患者を診察する際の心得に関する講演、さらに山内先生からは岡山の山間地域における家庭医療活動について、東野先生からは、臨床推論と診断に関する重要事項、誤診防止の心得などの講演が行われました。

翌日は、各先生から自分史を含めた将来選択のポイント、後期研修をどのように選択したかについて学生からの質問を交えて講演が行われました。途中、女性のキャリア・アップについては、地域医療医学講座の菊池 明日香先生が、自分の経験を含めた男女いずれも参考となるお話がありました。学生さんの現場を知りたい、学びたいという強い思いに心が打たれました。

現場が見える vol.1
～新春スペシャル～

日時：2019年2月16日(土曜日) 10時～17時半
2019年2月17日(日曜日) 9時～12時
場所：愛媛大学医学部 藤岡第1講義室
対象：医学生（全学年）
研修医

指導教員：
山内 祐輔先生（岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック）
東野 誠先生（東京ベイ・浦安市川医療センター）
川本 龍一先生（愛媛大学医学部地域医療学講座）
佐藤 格夫先生（愛媛大学医学部救急航空医学講座）
熊木 天児先生（愛媛大学医学部地域医療学講座）

愛媛大学医学部を卒業され、岡山・東京で活躍されている
在学の先生方をお招きします！
診断後の名簿：その後のフォローまでカバー！！
先生のキャリアプランについても聞くことができます！！
お時間がある方はぜひ！！

現場が見える 新春スペシャル

タイムスケジュール

2019年2月16日(土)

- 10時～10時20分 はじめに 佐藤先生による講演
- 10時20分～11時 レクチャー①（東野先生による臨床推論）
- 11時15分～12時15分 熊木先生によるオンラインセミナー
- 12時30分～13時 レクチャー②
- 13時15分～14時15分 レクチャー③
- 14時30分～15時30分 レクチャー④
- 15時45分～16時45分 レクチャー⑤
- 17時～17時30分 レクチャー⑥

終了後、希望者による懇親会を予定しています！
普段の授業では学ぶ機会が少ない、医療を行う上での倫理観やアドバンスケアプランニングなどについて学びます！

2019年2月17日(日)

- 9時30分～11時10分 卒業後のキャリアプラン、質問など
- 11時20分～11時50分 川本先生による講演
- 11時50分～12時 おわりに

【講師事項】
2月16日は看護科の試験送りの日ですが、その際は少し抜けていたとしても構いません。昼食は各自で準備をお願いします。

今回の勉強会は学生が企画をしています！！
勉強会とは別に多くの方に参加してもらいたいと思っておりますので、よろしくお願ひします！

申込は右下のQRコードからどうぞ！
勉強会当日の飛び入り参加も可能です！！

お問い合わせ：愛媛大学医学部CLE
E-mail: aamed.cle@gmail.com

多職種連携ワークショップ（2019年3月4～8日、野村町）

医学生と看護後学生を対象として、多職種連携活動を学ぶワークショップを開催しました。これは愛媛大学 GP 事業に採択されたもので、こうした活動を通して、地域医療における多職種連携の重要性を学んでいただきました。学生たちは、健康問題をもちながら地域で生活する人々との関わりを通じて、その人の価値観やニーズを知るとともに、その人の生活を支える家族、専門職、地域住民と関わり、住み慣れた地域でその人と家族が暮し続けることができるための地域包括ケアシステムの推進に向けた医療関係者の役割を体験されました。



医学生による診療船 済生丸実習（2019年5月14～17日、宇和海）

学生の離島実習を兼ねて診療船: 済生丸に乗船し、宇和海に浮かぶ小島に向いました。乗船する船は、診療船というだけあって診察室、心電図、超音波、X線装置などあらゆる設備が整っていました。朝5時に起床し、2時間かけて離島に向いました。午前7時に到着すると既に集会所にはたくさんの島民が集まっており、検診を待ちわびていました。済生丸での実習では、大学の講義では味わう事のできない離島ならではの医療の在り方について勉強させていただきました。



第9回 中四国地域医療フォーラム プレ集会

日時	平成31年2月8日(金) 15時～18時
場所	広島大学病院 臨床管理棟3階 3F1・3F2会議室
出席者	中四国大学地域医療関連講座
議題	「奨学金返還事例の報告と対処法について」
参加費	無料

◆プログラム◆

14:30	受付開始
15:00	開会挨拶 松本 正俊 (広島大学地域医療システム学講座教授)
15:10	各大学からの報告 司会 松本 正俊 (各大学あたりの発表を8分、質疑応答を2分としておりますが、 多少前後することもあるかと存じますので、目安としてお考え下さい)
①15:10	島根大学 谷口 栄作 (島根大学医学部地域医療支援学講座教授)
②15:20	岡山大学 佐藤 勝 (岡山大学地域医療人材育成講座教授)
③15:30	徳島大学 谷 憲治 (徳島大学病院総合診療部教授)
④15:40	愛媛大学 川本 龍一 (愛媛大学医学部地域医療学講座教授)
15:50	【休憩】
⑤16:00	高知大学 阿波谷敏英 (高知大学医学部家庭医療学講座教授)
⑥16:10	鳥取大学 福本 宗嗣 (鳥取県地域医療支援センター特命教授)
⑦16:20	山口大学 前田 敏彦 (山口大学医学部附属病院医療人育成センター助教)
⑧16:30	広島大学 松本 正俊 (広島大学地域医療システム学講座教授)
16:40	【休憩】
16:50	全体討論
17:40	次回開催地についてお知らせ・閉会挨拶 松本 正俊
18:00	閉会

第9回 中四国地域医療フォーラム

日時	平成31年2月9日(土) 9時～15時
場所	広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室
出席者	中四国大学地域医療関連講座・県行政担当者・地域医療支援センター職員・ 公立病院指導医・地域枠出身医師・地域枠学生ほか

◇プログラム◇

8:30	受付開始	
9:00	開会挨拶	秀 道広 (広島大学医学部長) 田中 剛 (広島県健康福祉局長)
	本会の概要説明	松本 正俊 (広島大学地域医療システム学講座教授)
9:15	各県からの事例紹介・報告	『地域枠出身者の配置システムについて』
	① 9:15 島根県	佐野 千晶 (島根大学医学部地域医療支援学講座准教授)
	② 9:25 岡山県	岩瀬 敏秀 (岡山県地域医療支援センター岡山大学支部助教)
	③ 9:35 徳島県	吉本 聖 (徳島県地域医療支援センター特任助教) 山口 治隆 (徳島大学病院総合診療医学分野准教授)
	④ 9:45 香川県	佐々木浩二 (香川県健康福祉部医務国保課主任)
	⑤ 9:55 愛媛県	川本 龍一 (愛媛大学医学部地域医療学講座教授)
10:05	【休憩】	
	⑥ 10:15 高知県	阿波谷敏英 (高知大学医学部家庭医療学講座教授)
	⑦ 10:25 鳥取県	永江 佳朗 (鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課医療人材確保室係長)
	⑧ 10:35 山口県	宮崎 睦子 (山口大学医学部附属病院医療人育成センター地域医療支援部門副部長)
	⑨ 10:45 広島県	松本 正俊 (広島大学地域医療システム学講座教授)
10:55	【休憩】	
11:05	地域枠出身医師による近況報告	島根県 藤井 俊吾 (松江赤十字病院 膠原病・腎臓内科) 広島県 脇本 旭 (庄原赤十字病院 内科)
11:40	自己紹介・グループ討論	(ランチョン形式：お弁当用意あり)
13:00	【休憩】	
13:10	グループ発表・全体討論	
14:40	まとめ・次回開催者ご挨拶・写真撮影	
14:50	閉会挨拶	松本 正俊
15:00	閉会	

地域医療学医科学研究 基礎配属学生の取り組み

1. 講座主任のことは

地域医療に関する研究は、地域医療の現場での体験が重要であり、その中でこそ地域医療の研究課題を描くことが可能となります。中山間地域や離島などへき地を多く抱える愛媛県においては、郡部や島嶼部を中心とした少子・高齢化の著しい進行や世帯構造の変化に伴い、疾病の複雑化、要介護者の増加及び生活習慣病の増加等、県民の保健・医療に対するニーズも多様化・複雑化しています。これら課題に対応するため、現地のニーズに即した地域医療に関する研究を行うことを目指しています。

2. 学生指導医の担当者リスト

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

川本龍一（教授） e-mail: rykawamo@m.chime-u.ac.jp

二宮大輔（助教）

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

TEL:0894-72-0180 FAX:0894-72-0938

菊池明日香（助教）

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65（久万高原町立病院）

TEL:0892-21-1120 FAX:0892-21-1121

3. 研究室の研究内容

地域における健康維持、疾病分析、治療に関する臨床疫学的調査研究：愛媛県内の地域における臨床疫学的調査を実施し、効果的な手法の開発により地域社会の生活のレベルの向上と住民全体のQOLの向上を図る。

内容

限られた医療資源の中で診断・治療を行う必要があることから、以下のテーマ等についての調査研究を実施し、その成果を地域医療に還元する。

例・風邪などのありふれた健康問題に関する研究

- ・慢性的な症状に対する研究
- ・高齢者のADLやQOLに関する研究

方法

地域サテライトセンターを中心にフィールドワークを展開し研究にあたる。

4. 医科学研究学生への指導方針

愛媛大学医学部地域医療学講座地域サテライトセンターにて地域住民を対象とした地域医療実習を行いつつ、研究テーマについて現地のスタッフと共に調査研究を行う。

5. 学生の研究内容

- ・山本 真優、谷本 壮、越智 晴永、山口 真史：地域医療実習、医学生における医療ドラマの視聴習慣の検討
- ・山手 敦史：山間地域における終末期医療に関する意識調査

6. 所属する医科学研究学生

1年生：4名、2年：4名、3年生：4名、5年生：1名

7. 所属学生による感想

近年高齢化が進む中、地域では医師不足や医療崩壊が危惧されています。そのような地域医療に興味があり実際に現場を見て学びたいという思いから、大学の授業カリキュラムの一環である基礎配属で私たちは地域医療学講座に所属しています。地域医療学講座の西予市地域サテライトセンター（西予市立野村病院）で実習し、外来・訪問診療・介護施設訪問・カンファレンスなどを通して、私たちは地域医療の現実を目の当たりにしました。総合医になるために必要な能力や勉強、医師に限らず医療従事者が不足している地域病院での多職種連携の重要性を強く感じました。一方で地域でも出来る事は多くあることを学び、そこで様々なワークショップやサテライトセンターを利用したテレビ会議勉強会、EBM 勉強会などを積極的に行い、地域に根付いた課題について各自テーマを持ち研究に取り組んでいます（第13回愛媛プライマリ・ケア研究会での抄録より）。

8. 医科学研究発表会演題リスト

第14回医科学研究発表会（2018.9.19、東温市）

愛媛大学医学部附属病院総合診療科の外来患者調査

小坂花梨、菊池明日香、赤瀬太一、千崎健佑、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

9. 研究成果リスト

第18回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2018.11.17-18、徳島市）

医学部1年生におけるPBLをベースとした地域医療学教育の効果および実習意欲への影響

久保智香、西谷瑠乃、中川真利亚、山根未久、山本夏希、菊池明日香、二宮大輔、熊木天児、川本龍一

第19回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2019.11.2-3、高松市）

医学生における医療ドラマの視聴習慣の検討

山本 真優、谷本 壮、越智 晴永、山口 真史、菊池 明日香、二宮 大輔、古川 慎哉、熊木 天児、川本 龍一



愛媛県主催医学生サマーセミナー

日 時：令和元年 8 月 17 日(土) 12：30～17：00

会 場：県庁第二別館 6 階大会議室

スケジュール：

時 間	内 容
12:00～12:30 (30 分)	受付
12:30～12:35 (5 分)	開会挨拶 医療対策課長 大野 和久
12:35～13:05 (30 分)	司会 愛媛県立中央病院総合診療科部長 杉山 圭三先生 ----- 研修医報告：地域卒卒業生 城戸 信二先生 自治医大卒業生 安岐 佳子先生
13:05～13:15 (10 分)	ワークショップの進め方の説明 進行 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
13:15～14:15 (60 分)	《テーマ》（各市町、病院ともに 10 分程度） 「県内市町及び医療機関の現状・施策について」 ⑤ 新居浜市、②県立新居浜病院、③大洲市、 ④市立大洲病院⑤愛南町、⑥県立南宇和病院
14:15～14:25 (10 分)	(休憩)
14:25～15:55 (90 分)	ワークショップ 《テーマ》 愛媛の地域医療を担うために「地域包括ケアとまちづくり」 各班の課題 「各参加市町の医療から見たまちづくり」 〔 ・ 講義内容を参考にグループ討論 ・ 8 班（5 人程度）に分かれて意見交換 ・ 30 分で各担当テーマのまとめ 〕
15:55～16:55 (60 分)	討論発表
16:55～17:00	閉会挨拶 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生

内容

毎年、愛媛県が愛媛の地域医療に興味・関心を持つ県内外の医学生を対象に県内の地域医療への理解を深めていただくため医学生サマーセミナーを開催しています。今年は、県内外の大学から41人の医学生が参加しました。また、昨年から実施している取組として、セミナー前に愛媛大学主催のプレレクリエーションを実施しました。

プレレクリエーションでは愛媛大学医学部附属病院総合診療科の菊池 明日香先生が、アイスブレイクとして、「他職種連携を学ぼう」をテーマとして、愛媛出身の医学生同士、ご飯を食べながらワイワイ楽しみ親交を深めました。

セミナーでは、愛媛県の大野和久医療対策課長から愛媛県内の地域医療に理解を深めていただきたいと挨拶があった後、愛媛県立中央病院総合診療科部長：杉山 圭三先生の司会で、愛媛大学地域卒業生：安岐 佳子先生、自治医科大学卒業生：城戸 信二先生から地域医療現場での日々の研修内容や自身の学生時代の振り返り等について報告がありました。

その後、愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座の川本 龍一教授の進行で「愛媛の地域医療を担うために『地域包括ケアとまちづくり』」をテーマとしたワークショップを行いました。

ワークショップにあたり、愛媛県内の新居浜市、大洲市、愛南町の職員の方々から各市町の特色や地域医療の現状の説明、また、県立新居浜病院 北條院長、市立大洲病院 谷口院長、県立南宇和病院 村上院長から各病院の現状・課題等について説明がありました。

各班の発表後、各アドバイザーから「医学生の皆さんが若者の感性で真剣に各市町の課題に取り組んでくれたことに敬意を表したい」「本日、話題に上がりました意見や提案を実現させるべく、地域医療を担う医師になってくれることを期待している」等のコメントがありました。



ワークショップ前後のアンケート結果

	前回答	後回答
・地域医療は大変そうである	80.0%	97.5%
・地域医療には夢がある	90.0%	92.5%
・将来、愛媛の地域医療に関わりたい。	87.5%	92.5%
・地域医療にはやりがいがありそう	90.0%	97.5%
・将来は、地域の中核病院で働きたい	85.0%	92.5%
・地域診断のような活動は意義ある	87.5%	97.5%
・地域診断のような活動は継続すべきである	85.0%	95.0%
・当該地域の医療に対する興味がある	87.5%	95.0%
・当該地域に将来貢献したい	85.0%	92.5%

第19回愛媛プライマリ・ケア研究会

愛媛大学医学系研究科大学院フォーラム

【日時】令和元年 6月29日(土) 17:00~18:45

【場所】リジェール松山

愛媛県松山市南堀端2-3 JA 愛媛 8階

【開会挨拶】17:00~17:05

【一般演題】17:05~17:45

演題1 高齢者救急診療における急変時の対応

西予市立野村病院内科

赤瀬太一、川本龍一、大塚伸之、楠木智、二宮大輔、笠井誉久、菊池明日香

演題2 Panel Managementにより地域の喫煙問題に対しハイリスクアプローチを行った活動報告

愛媛県立中央病院総合診療科 / 医療福祉生協連家庭医療後期研修レジデンシーせとうち

水本潤希

演題3 プライマリ・ケア従事者に知って欲しい公衆衛生学的アプローチと地域医療に不可欠な EBPH

愛南町国保一本松病院 / Rollins School of Public Health, Emory University Executive MPH Program

嶋本純也

演題4 「平成30年7月豪雨」被災地病院としての医療活動報告

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座¹⁾、西予市立野村病院内科²⁾、久万高原町立病院内科³⁾

二宮大輔¹⁾²⁾、菊池明日香¹⁾²⁾、熊木天児¹⁾³⁾、川本龍一¹⁾²⁾

【特別講演】

「高齢化社会における地域医療の今」

自治医科大学地域医療センター地域医療学部門 小谷 和彦先生

【閉会挨拶】18:45~18:50

愛媛大学大学院地域医療学講座 教授 川本 龍一先生

愛媛プライマリ・ケア研究会 【五十音順】

顧問 恩地 森一 (愛媛大学 医学部 名誉教授)

日浅 陽一 (愛媛大学 消化器・内分泌・代謝内科学)

代表世話人 川本 龍一 (愛媛大学大学院 地域医療学講座)

世話人 松浦 文三 (愛媛大学大学院 地域生活習慣病・内分泌学講座)

宮岡 弘明 (済生会松山病院)

高原 完祐 (愛媛十全医療学院附属病院)

加藤 正隆 (かとうクリニック)

村上 晃司 (愛媛県立南宇和病院)

杉山 圭三 (愛媛県立中央病院)

山口 朋孝 (市立宇和島病院)

主催 愛媛プライマリ・ケア研究会



総合診療科

– 地域を舞台に学ぶ Enjoy learning medicine in your community ! –

① 総合診療科とは？ What is Diagnostic and General Medicine?

総合診療科とは、専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、**全人的に人を捉え特定の臓器や疾患に限定せず多面的に診療を行う部門**です。また、外来初診の「症状」のみの患者に**迅速かつ適切に「診断」をつける科**でもあります。

地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しています。このような現状のなか地域住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。総合診療科では地域に根付いた教育と研究、診療活動を行う総合診療専門医の育成を目指しています。

② プログラムの目的と特徴 What you can learn are...

● 研修場所について where to practice ?

主な研修場所は**地域における救急を含む一次/二次医療を担当する一般病院**です。紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診・入院を受け入れています。**救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会**を保障しています。臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修で学ぶため、指導医も臓器別専門医として指導をするのでなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。

患者の諸問題から出発して学習をすすめる**問題指向型学習 Problem-based Learning**を行いやすい環境を保障しています。

● 地域医療と多職種連携 Rural medicine / Community-Based integrated care system

いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。**病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。**

医師カンファレンスだけでなく各種メディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行っており、各種スタッフと協力して医療を行う**チーム医療の姿勢を身につけるのに適した環境**を保障しています。

● 研修医の先生を大切に育てます。学習環境も整備しています。

研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。**屋根瓦方式**を取り入れており上級医とともに学ぶことが可能です。研修医が精神的、身体的に健康な状態であつ経済的余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇・給料を保障しています。**Up to date®**の使用、**大学のネットワーク環境を利用した文献検索**が可能であり自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。

補足) 当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「**総合診療科専門研修コース**」と臨床経験5年以下の「**地域医療生涯研修コース**」を用意しています。



③ 経験目標 What is the coal of your training ?

地域医療を担う医師には、**一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患の対応、訪問診療など在宅医療や介護保険への関わり、疾病予防（健康診断、予防医学）学校医や産業医活動**など多岐にわたる対応が求められます。地域が異なれば住民のニーズも異なります。

当プログラムでは、あらゆる地域のあらゆる患者に対し、**全人的な医療を提供できる総合診療医・家庭としての技能の習得**を目指しています。プログラムを修了した暁には、医師は地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、**幅広い分野の人々と協働できる医師**へと成長することが期待されます。

④ 指導医と指導体制 Staff Introduction

- 川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、米国内科学会上級会員、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）
- 菊池明日香（助教：日本プライマリケア連合学会 所属 総合診療科 専攻医）



（学会発表での様子）

⑤ 研修に関する行事 Daily schedule

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	訪問診療	外来・病棟
PM	抄読会	病棟カンファ 褥瘡回診	画像勉強会 健康教室	地域連携 カンファ	病棟カンファ 総回診

- ・学会発表 年1回以上
- ・原著論文作成
- ・外部研修会への参加
- ・卒前教育（学生さんの指導にも携われることができます）

⑥ 新専門研修プログラム New Board Certificated General Practitioner

1・2年目 3年目 4年目 5年目

		総合診療科 専門研修プログラム	
初期 臨床研修		<ul style="list-style-type: none"> ● 総合診療 I（12ヶ月） ● 総合診療 II（6ヶ月） ● 内科ローテート（12ヶ月） ● 救急科ローテート（3ヶ月） ● 小児科ローテート（3ヶ月） 	家庭医療専門医 総合診療科専門医
臨床研修 病院		地域中核病院・地方病院・診療所 その他(大学、市中病院、サテライト施設)	



★ 大学 ★ サテライト施設

⑦ 専門研修終了後 After you finished the program...

個人の希望に応じて、愛媛大学の関連病院での勤務、大学院進学が可能です。

⑧ 専門研修の問い合わせ先 Feel free to contact us !!

愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）下記 HP よりお気軽にお問い合わせください。

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/community.med/>

Tel: 0894-72-0180 Fax: 0894-72-0938

愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来

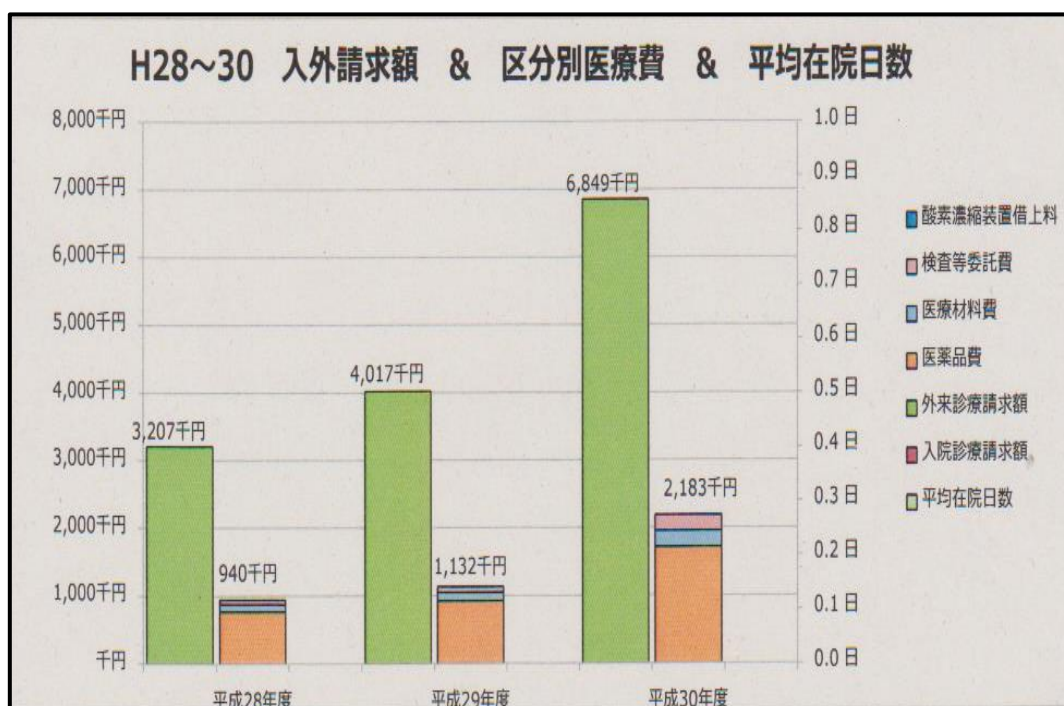
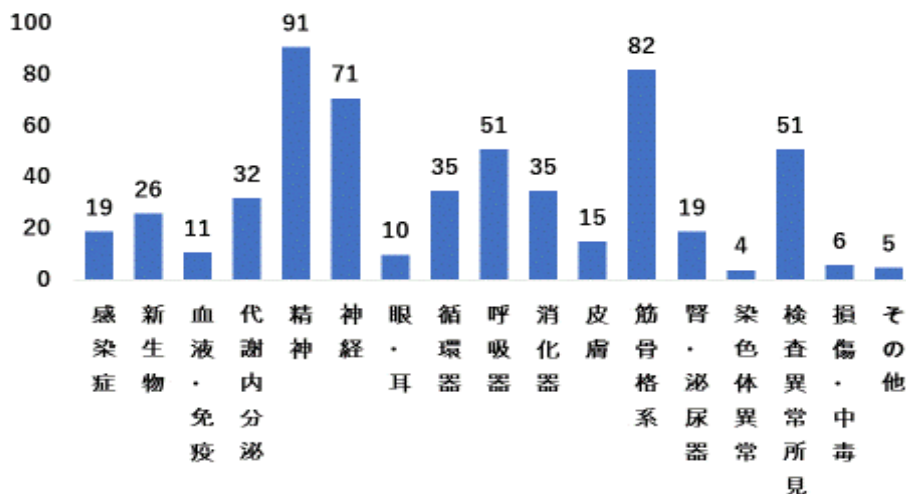
外来診療表

月	火	水	木	金
菊池 明日香 古川 慎哉	熊木 天児	菊池 明日香 古川 慎哉	川本 龍一	二宮 大輔

- 紹介率：58.8%（2016年）→66.7%（2017年）→68.3%（2018年）
- 逆紹介率：17.6%（2016年）→17.9%（2017年）→22.0%（2018年）
- 66.5%は総合診療科のみで診断、治療が完結

診断(ICD-10)

2016/3～2019/10



初期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。

初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：松山赤十字病院 1名、松山市民病院 1名、自治医科大学病院 7名

初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

関口研修医 (5/7～30)

一ヶ月間、お世話になりました。

- ・地域の基幹病院としての役割
- ・患者さんの入院適応と退院支援
- ・地域性（地理、文化、風土等）を考慮した医療形態
- ・終末期における緩和医療と家族との関わり などを学び経験することができました。

救急のファーストタッチ、手技を優先して行わせていただき、研修医を大事に扱っていただく一方でひとりの医師として尊重してもらえたと思います。とても有意義で楽しい一ヶ月でした。ありがとうございました。



丸藤研修医 (6/3～27)

一ヶ月間という短い期間ではありましたが、大学病院では経験できないことをたくさん学ぶことができました。訪問診療への同行や外来、施設の回診など非常に勉強になりました。また、先生方、看護師ほかスタッフの皆さんが親切で気さくで病院の雰囲気がよくとても研修しやすかったです。この一ヶ月で経験したことは、これから先、必ず生きていくと思います。ありがとうございました。

島本研修医 (8/1～30)

病棟、外来、往診とさまざまな場面で仕事ができ勉強になりました。自分のできるところまでは任せていただいて自分で考え、実行したあとのフォローを考える、といった一歩踏み込んだ研修になったと思います。一ヶ月という短い期間でしたが、とても濃密な時間を過ごせたと思います。ありがとうございました。

手塚研修医 (9/2～29)

一ヶ月間、お世話になりました。外来、救急、往診など大学病院ではできない経験をたくさんさせていただきました。至らない点多々ありましたが、先生方はじめスタッフの皆さんも親切で的確なサポートをしてくださりありがたかったです。また、医療スタッフと患者さん、ご家族の距離が近く地域の方々の温かみを感じました。こちらで経験したことを今後活かしていけるようがんばります。楽しかったです。ありがとうございました。

渡部研修医（10/1～29）

大学病院とはまた違った地域密着の医療を経験することができました。医師のみでなく、医療従事者全員で違った立場の異なる視点から1人の患者にできるサポートについて考え、それを実行するために協力し合う“これぞチーム医療だ”という野村病院の考えにとても共感しました。また、研修医の立場が尊重され、意見が言いやすい環境でした。一ヶ月という短い期間でしたが、とても楽しく研修することができました。ありがとうございました。

佐藤研修医（11/1～27）

一ヶ月間、ありがとうございました。大学病院では経験できない診療車での診療、往診、また院内での手技や救急対応など研修医優先でやらせていただき有意義な一ヶ月になりました。退院カンファレンスや施設入所までの流れなど、大学と比べるとより患者さんの生活にそくした医療がなされると感じました。残りの初期研修に活かしてしていきます。お世話になりました。

水越研修医（12/2～26）

一ヶ月あっという間でしたが、あたたかく見守っていただき充実した研修になりました。地域ならではの医療形態（自宅や施設への往診、移動診療車など）に触れることができ、限られた物資の中でその人にとって最適な医療を施してあげることの難しさや他職種との情報共有や意見交換の大切さを実感しました。患者さんやご家族、医療スタッフの距離が近くてとても研修しやすい環境でした。（一週間の流れなどオリエンテーションがあるともっと研修しやすいかなとも思います。）ありがとうございました!!

池田研修医（1/6～31）

先生方をはじめスタッフのみなさんがいろいろと手助けしてくださりスムーズに研修期間を過ごすことができました。多職種のカンファレンスはこの研修でのメインのひとつだったように思います。意見を言うこと、聞くことがもっとできたかなと思うと今後の課題になりました。質問もしやすい環境で大変勉強になりました。ありがとうございました。

由本研修医（2/3～26）

一ヶ月間、あっという間に過ぎてしまいました。自分で考え患者さん一人一人に合わせた医療を提供することの難しさ、大切さを学びました。患者さんだけでなく、ご家族にも寄り添い、背景や環境にあわせて医療者だけでなくケアマネージャーなど関わるすべてのスタッフと協力する。地域に密着した病院の体制、先生方、医療従事者の姿勢、人の温かさを実際に体験できました。お世話になりました。ありがとうございました。

2019年度 地域医療学講義内容

後期課程 場所：臨床第2講義室 7コマ 6時限：15:20-16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10月10日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
10月11日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
10月17日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
10月18日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「地域医療における面接技法」	地域医療学	二 宮
10月24日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	非常勤講師	大原 (川本)
10月25日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	菊 池
10月31日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	古 川

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
11月7日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 1」	地域医療学	川 本
11月14日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 2」	地域医療学	川 本
11月15日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療における糖尿病診療」	地域医療学	古 川
11月21日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「多職種との連携」	地域医療学	川 本
11月22日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域における医療資源の活用」	地域医療学	二 宮
11月28日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	古 川
11月29日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	非常勤講師	加藤 (二宮)
12月5日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
12月6日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「予防医療活動」	地域医療学	川 本
12月12日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
12月13日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「身体診察の基本」	地域医療学	古 川
12月19日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「在宅終末期医療」	地域医療学	川 本
12月20日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学部内非常勤講師	宮岡 (二宮)
1月9日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療における研究活動」	地域医療学	川 本
1月10日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「心のケア」	非常勤講師	山岡 (二宮)
1月16日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	川 本
1月17日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	二 宮
1月23日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「バングラデシュでの医療活動」	非常勤講師	宮川 (川本)
1月24日 金曜日	6時限	テスト	地域医療学	川 本

2019年度 地域医療ワークショップ（地域枠対象）

日 時	曜	対 象	内 容	人数
4月18日	木	第115回：地域枠3年生	卒後の配置とキャリア形成	7
4月23日	火	第116回：地域枠1年生	愛媛の地域医療を担うために	20
4月25日	木	第117回：地域枠2年生	大学の医局について考える	8
5月9日	木	第118回：地域枠4年生	胸写を読む	3
5月16日	木	第119回：地域枠3年生	地域をケアする：誰もが住んでみたいと思う街	15
5月28日	火	第120回：地域枠1年生	卒後の配置とキャリア形成	17
5月30日	木	第121回：地域枠2年生	医師のプロフェッショナルリズム	7
6月4日	火	第122回：地域枠1年生		
6月6日	木	第123回：地域枠4年生	臨床推論	11
6月13日	木	第124回：地域枠3年生	日本と世界の医療制度	7
6月20日	木	第125回：地域枠2年生	少子高齢化を考える	5
7月11日	木	第126回：地域枠3年生	日本と世界の医療制度	7
7月18日	木	第127回：地域枠2年生	卒後の配置とキャリア形成	3
7月23日	木	第128回：地域枠1年生		
10月10日	木	第129回：地域枠3年生	「超高齢化社会」の処方箋を考える	4
10月17日	木	第130回：地域枠2年生	「診療科の偏在」を考える	9
11月7日	木	第131回：地域枠3年生	「超高齢化社会」の処方箋を考える	6
11月14日	木	第132回：地域枠4年生	地域をケアする：誰もが住んでみたいと思う街	10
11月21日	木	第133回：地域枠2年生	日本における災害	1
12月5日	木	第134回：地域枠3年生	地域をケアする	8
12月11日	水	第135回：地域枠1年生	地域医療をわかりやすく理解する	9
12月19日	木	第136回：地域枠2年生	日本における災害	8
1月9日	木	第137回：地域枠3年生	臨床推論	9
1月15日	水	第138回：地域枠1年生	家庭の仕事をわかりやすく理解する	5
1月16日	木	第139回：地域枠2年生	日本と世界の医療制度	3

4月23日 1年生



第5学年臨床実習班名簿

	1週目：野村病院、2週目：久万高原町立病院	1週目：久万高原町病院、2週目：野村病院
1班	武田 遥奈 武田 佳菜 藤田 千勢	伊吹 知真 鉄村 一晟 中城 栄木
2班	浮田 栞 大家 伽奈子 勝村 万実	川邊 健太 林 知樹 山田 佳樹
3班	戒能 知佳 武田 茉莉亜 松本 福子	坂田 慎一郎 多山 貴雄 住田 悠太郎
4班	金澤 壮健 古賀 菜奈子 橋本 和樹	茅田 祐輝 藤堂 幸奈 渡邊 凜来
5班	佐伯 ゆい 貴田 彩香 吉田 果央	江夏 慶 中村 祐太 山手 敦史
6班	城戸 謙佑 野見山 敦史 矢野 慎弥	池内 香乃 川上 萌 南 晴菜
7班	日浅 悠 福本 健 松村 朱夏	金子 彩 藤田 茉由貴 山田 純也
8班	河内 直揮 重見 拓弥 宮地 太一	阿部 尚子 藤田 華愛 江原 愛実
9班	浅原 啓介 池田 眞子 遠藤 佑夏	玉井 文明 中尾 達司 原岡 優子
10班	井門 未来等 内田 理子 大竹 郁斗	稲垣 遼 井上 真惟 奥住 奈南美
11班	池田 修斗 宇田 晃一郎 松田 麻理子	青野 美桜 堀木 翔太 森 紗綾
12班	井戸田 聡 須藤 瞳 永井 冴映	河野 晋太郎 黒光 貴俊 宗石 愛花
13班	平 佳穂里 藤崎 佳乃 高橋 南映	莫根 良太 濱田 真彰 森田 浩貴
14班	多田羅 翼 高橋 みき 俊成 明	小阪 花梨 吉良 美香 永尾 陵
15班	栗田 拓実 新宮 晃太郎 藤本 さやか	北野 友里絵 中村 綾花 松田 拓也
16班	有本 可奈 根本 弘一郎 森 菜都子	仙波 重亮 平仲 凧
17班	末松 駿之介 富田 斐月香 松岡 海南	南淵 杜萌 中村 京二郎
18班	青江 佳歩 中山 真裕美 高崎 徹哉	上野 竜太郎 萩原 彩
19班	萬屋 愛賀 和田 迪子 渡邊 佳苗	高橋 一誠 山中 伸太郎

感想

- ・実際に患者さんと接する機会が多かった。
- ・実際の現場を一番感じられた科であった。
- ・他職種の大変さがわかった。
- ・地域でどのような医療が行われているか学べた。
- ・様々な実践を学べた。
- ・診察に参加させてもらい少し働く実感がもてた。
- ・様々な臨床的手技を練習することができた。



実習前後における地域志向性の変化

質問項目	N=222	実習前	実習後	P-value
1)地域医療は大変そうである。		97.2	96.3	0.114
2)地域医療には夢がある。		78.9	85.0	<0.001
3)地域医療を担う自信がある。		39.4	44.9	0.411
4)将来、愛媛の医療に関わりたい。		57.8	68.2	0.106
5)地域医療にはやりがいがありそうだ。		97.2	99.1	0.001
6)地域医療に従事すると医療の進歩に遅れる気がする。		33.0	31.8	1.000
7)将来、幅広い領域を扱う総合医になりたい。		60.6	65.4	0.093
8)将来、特別な科の専門医になりたい。		74.3	91.6	0.089
9)将来、研究者(基礎医学を含む)になりたい。		15.6	14.0	0.011
10)将来は、ライフワークとして診療所で働きたい。		33.0	37.7	0.091
11)将来は、ライフワークとして大きな総合病院で働きたい。		74.3	72.9	0.605
12)将来は、ライフワークとして地域の中核病院で働きたい。		78.9	86.0	0.009
13)将来は、仕事よりはライフスタイルを大事に働きたい。		68.8	69.2	1.000
14)地域医療を担うのにどのような知識が必要か知っている。		16.5	48.6	<0.001
15)将来は田舎で働きたい。		15.6	21.5	0.041
17)地域の人(住民)と話すのは好きである。		93.6	96.3	0.001
18)患者と話すのは好きである。		87.2	97.2	<0.001
19)コメディカル(看護師など)と話すのは好きである。		92.7	100	<0.001

肯定意見の割合

業 績

【原著】

- Ohno R, Kawamoto R, Kanamoto M, Watanabe J, Fujii M, Ohtani H, Harada M, Kumagi T, Kawasaki H.
Neutrophil to Lymphocyte Ratio is a Predictive Factor of Malignant Potential for Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the pancreas.
Biomark Insights 14: 1177271919851505, 2019.
- Sato T, Miki T, Furukawa S, Matsuura B, Hiasa Y, Ohnishi H, Tanno M, Miura T.
Longitudinal impact of dapagliflozin treatment on ventricular repolarization heterogeneity in patients with type 2 diabetes.
J Diabetes Investig 2019; 10(6): 1593-1594.
- Kawamoto R, Akase T, Ninomiya D, Kumagi T, Kikuchi A:
Metabolic syndrome is a predictor of decreased renal function among community-dwelling middle-aged and elderly Japanese.
Int Urol Nephrol 51; 12: 2285-2294, 2019.
- Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Kumagi T:
Usefulness of the waist-to-height ratio in screening incident metabolic syndrome among Japanese elderly community-dwelling persons.
PLoS One 14; 4: e0216069, 2019.
- Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, Akase T, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T:
Association of neutrophil-to-lymphocyte ratio with early renal dysfunction and albuminuria among diabetic patients.
Int Urol Nephrol 51; 3: 483-490, 2019.
- Kawamoto R, Ninomiya D, Akase T, Kikuchi A, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T:
Serum Uric Acid to Creatinine Ratio Independently Predicts Incident Metabolic Syndrome Among Community-Dwelling Persons.
Metabolic syndrome and related disorders 17; 2 81-89, 2019.
- Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, Akase T, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T:
Total bilirubin independently predicts incident metabolic syndrome among community-dwelling women.
Diabetes & Metabolic Syndrome: Clinical Research & Reviews 13; 2: 1329-1334, 2019.

Kawamoto R, Ninomiya D, Kikuchi A, Akase T, Kasai Y, Ohtsuka N, Kumagi T:
Serum uric acid to creatinine ratio is a useful predictor of renal dysfunction among diabetic persons.
Diabetes & Metabolic Syndrome: Clinical Research & Reviews 13; 3: 1851-1856, 2019.

Kawamoto R, Ninomiya D, Akase T, Kikuchi A, Kumagi T:
Interactive association of baseline and changes in serum uric acid on renal dysfunction among community-dwelling persons.
J Clin Lab Anal: e23166, 2019.

【総説】

川本龍一

地域医療学入門: 医療機関の連携
診断と治療社 2019年8月出版

古川慎哉 松浦文三、日浅陽一
糖尿病における性機能障害
内分泌・糖尿病・代謝内科 2019 ; 49 (4) : 292-296.

古川慎哉 松浦文三、日浅陽一
歯周病と糖尿病に関する医療連携への期待
内分泌・糖尿病・代謝内科 2019 ; 48 (2) : 125-129.

古川慎哉
勃起障害
糖尿病最新の治療 2019-2021 210-2
門脇孝 荒木栄一 綿田裕孝編集
南江堂 2019年 東京

古川慎哉, 日浅陽一
【診療力を上げる! 症例問題集】(第10章)代謝・内分泌 症例問題
糖尿病による脳血管障害
内科 2019 ; 123 (4) : 995-996.

【学会発表】

第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (2019.2.27-28、東京)

アルコール飲酒は、地域在住の男性においてインスリン抵抗性の低下と関連している
川本龍一、片山雪江、中岡友香、棟田奈津美

日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会ポータル発表会（2019.04.20、南国市）

多職種による心不全回診が低活動型せん妄患者に有効であった1例

河野佑典

看取りについて

赤瀬太一



第92回日本内分泌学会学術集会（2019.5.9-11、仙台）

非アルコール性脂肪性肝疾患患者の筋肉量と関連した因子の検討

三宅映己、仙波英徳、山本晋、古川慎哉、阿部雅則、利光久美子、松浦文三、日浅陽一

脳出血を契機に発見された原発性アルドステロン症と甲状腺乳頭癌を合併した1例

岡本唯、眞鍋健一、渡部杏子、和泉清拓、増田紘子、加藤ひとみ、新谷哲司、古川慎哉

当院の糖尿病教育入院患者における高齢者糖尿病の脂肪組成の特徴

津留伯耀、新谷哲司、岡本唯、渡部杏子、和泉清拓、増田紘子、塩見亮人、加藤ひとみ、眞鍋健一、古川慎哉

第10回日本プライマリ・ケア連合学会（2019.5.17-18、京都）

医学生の田舎での多職種連携活動と地域医療への思いに及ぼす研究

川本龍一、二宮大輔、赤瀬太一、菊池明日香、熊木天児、大塚伸之

Digestive Disease Week（2019.5.19-21、シカゴ）

Association between albumin globulin ratio and mucosal healing among Japanese patients with ulcerative colitis.

Sen Yagi, Shinya Furukawa, Eiji Takeshita, Yoshio Ikeda, Yoichi Hiasa

第62回日本糖尿病学会総会（2018.5.23-25、仙台市）

糖尿病患者における好中球・リンパ球比と早期腎機能障害およびアルブミン尿との関係

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

2型糖尿病におけるルセオグリフロジンが食習慣に与える影響に関する探索的研究

古川慎哉、三宅映己、古川恵理、仙波英徳、中口博充、神崎さやか、宮岡弘明、日浅陽一、松浦文三

連続グルコースモニタリングデータの解釈における連続 Wavelet 変換の可能性

中村陽一、古川慎哉

DPP-4 阻害薬とビッグアナイド薬の配合薬への切替えが 2 型糖尿病患者の QOL および治療満足度に及ぼす影響

廣畑俊哉、新谷哲司、栗原渉、津留伯耀、岡本唯、渡部杏子、和泉清拓、増田紘子、塩見亮人、加藤ひとみ、眞鍋健一、松原史明、古川慎哉

腹腔鏡下胃スリーブ状胃切除後の糖尿病寛解に関連する因子についての検討

仙波英徳、金本麻友美、三宅映己、山本晋、古川慎哉、日浅陽一、小堀友恵、松浦文三

2 型糖尿病患者における非肥満内臓脂肪蓄積患者の特徴について

渡部杏子、新谷哲司、岡本唯、栗原渉、津留伯耀、和泉清拓、増田紘子、塩見亮人、加藤ひとみ、眞鍋健一、松原史明、古川慎哉

2 型糖尿病患者の心筋再分極不均一に対する dapagliflozin の経時的効果

佐藤達也、大西浩文、三木隆幸、古川慎哉、松浦文三、日浅陽一、三浦 哲嗣

インスリン治療を行っている 2 型糖尿病患者への SGLT2 阻害薬追加投与が QOL に及ぼす影

響栗原渉、新谷哲司、津留伯耀、岡本唯、渡部杏子、和泉清拓、増田紘子、塩見亮人、加藤ひとみ、眞鍋健一、松原史明、古川慎哉

日本超音波医学会第 92 回学術集会（2019.5.24-26、東京）

肝線維化診断の展望

US-fusion と新規アタッチメントを用いた新規肝脾硬度測定法の臨床応用

広岡昌史、田中孝明、小泉洋平、今井祐輔、行本敦、石原暢、吉田理、古川慎哉、阿部雅則、日浅陽一

第 61 回日本老年医学会学術集会（2019.6.6-8、仙台市）

尿酸・クレアチニン比はメタボリックシンドロームの独立予測因子である。

川本龍一、二宮大輔、楠木 智

IMT 正常の高齢 2 型糖尿病患者における無症候性心筋虚血の頻度とその特徴について

眞鍋健一、新谷哲司、渡部杏子、和泉清拓、増田紘子、塩見亮人、加藤ひとみ、古川慎哉

当院に教育入院した高齢2型糖尿病患者の内臓脂肪・皮下脂肪量について

新谷哲司、眞鍋健一、岡本唯、津留伯耀、栗原渉、加藤ひとみ、松原史明、古川慎哉

第19回日本病院総合診療医学会学術総会（2019.9.14-15、佐賀市）

地域在住女性において ベースライン時尿酸とその後変化は、メタボリックシンドロームの発症と関係している

川本龍一、二宮大輔、菊池明日香、古川慎哉

第30回日本性機能学会学術総会（2019.9.20-22、徳島）

糖尿病における勃起障害(ED)の診断の意義とその活用

古川慎哉、松浦文三、日浅陽一

第40回日本肥満学会学術集会（2019.11.2-3、東京）

2型糖尿病患者における肥満に関連する糖尿病関連 QOL の因子について

岡本唯、新谷哲司、増田紘子、津留伯耀、加藤ひとみ、眞鍋健一、松原史明、古川慎哉

第19回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2019.11.2-3、高松市）

医学生における医療ドラマの視聴習慣の検討

山本真優、谷本壮、越智晴永、山口真史、菊池明日香、二宮大輔、古川慎哉、熊木天児、川本龍一

三叉神経障害を伴った Bell 麻痺の1例

菊池 明日香、二宮 大輔、古川慎哉、熊木 天児、川本 龍一

当院で経験した高齢者肺結核の対応について

赤瀬太一、川本龍一、大塚伸之、楠木智、二宮大輔、笠井誉久、菊池明日香



第29回臨床内分泌代謝 Update in Kochi（2019.11.29-31、高知）

腹腔鏡下胃縮小手術後1年の糖尿病寛解に関連する因子の検討

仙波英徳、首藤祥子、神崎さやか、中口博允、三宅映己、古川慎哉、日浅陽一、松浦 文三

テオフィリン濃度で確定したカフェイン中毒による偽性褐色細胞腫

松原史明、方波見卓行、眞鍋健一、加藤ひとみ、岡本唯、津留伯耀、栗原渉、新谷哲司、古川慎哉、永井義夫、田中逸

カフェインによる高アルドステロン血症で心室頻拍を誘発した1例

堀内景一郎、眞鍋健一、岡本唯、津留伯耀、加藤ひとみ、松原史明、新谷哲司、古川慎哉

ニボルマブ、イピリマブ導入後に甲状腺クリーゼを発症した一例

中口博允、神崎さやか、仙波英徳、三宅映己、山本晋、宮内省蔵、古川慎哉、竹下英次、日浅陽一、松浦文三

経過中に縮小した非機能性両側副腎腫瘍の一例

岡本唯、眞鍋健一、津留伯耀、増田紘子、加藤ひとみ、松原史明、新谷哲司、古川慎哉

低ALP血症が診断の契機になった成人期発症HPPの一例

山本晋、吉田沙希子、土居寿之、上田晃三、近藤しおり、首藤祥子、神崎さやか、仙波英徳、中口博允、三宅映己、古川慎哉、日浅陽一、松浦文三

【研究会】

第19回愛媛プライマリ・ケア研究会（2019.6.29、松山）

高齢者救急診療における急変時の対応

赤瀬太一、川本龍一、大塚伸之、楠木智、二宮大輔、笠井誉久、菊池明日香

「平成30年7月豪雨」被災地病院としての医療活動報告

二宮大輔、菊池明日香、熊木天児、川本龍一

家族性地中海熱の一例

菊池明日香、川本龍一、二宮大輔、古川慎哉、熊木天児

南予消化器、糖尿病、内分泌研究会（2019.09.19、宇和島市）

糖尿病患者における好中球/リンパ球比と微量アルブミン尿および腎機能障害との関係

川本龍一

【講演会】

いきいき健康大学 出張教室（西予市城川町）（2019.02.05、西予市）

STOP 糖尿病！教室

川本龍一

第9回中四国地域医フォーラム プレ集会（2018.02.08、広島市）

「奨学資金返済事例への対応と今後の対策」

川本龍一

第9回中四国地域医フォーラム集会（2018.02.09、広島市）

「地域枠出身者の 配置システムについて」

川本龍一

現場が見える～新春スペシャル～（2019.02.17、東温市）

地域医療への思い

川本龍一

いきいき健康大学 出張教室（西予市溪筋地区）（2019.02.19、西予市）

尿中塩分検査から見える 生活習慣病のリスクと予防

川本龍一

平成30年度長寿社会づくりソフト事業成果報告会（2019.02.26、下野市）

山間地域における生活習慣病に関する研究

川本龍一

愛媛シームレス地域医療人育成プログラム（2019.03.04、西予市）

「地域包括ケアを体験」 医師の役割

川本龍一

西予市立野村病院看護教育講演会（2019.03.13、西予市）

心不全について

川本龍一

愛媛大学公衆衛生特別講義（2019.04.24、東温市）

地域医療における公衆衛生活動

川本龍一

西予市立野村病院看護師会（2019.06.19、西予市）

看護師研究について

川本龍一

生きがいデイ（2019.07.02、西予市）

熱中症について

川本龍一

愛媛大学第三内科黄蘭会（2019.07.13、東温市）

地域で医師を育てる

川本龍一

愛媛大学第三内科黄蘭会（2019.07.13、東温市）

尿酸とメタボリックシンドローム（恩地森一賞）

川本龍一

地域協働教育研究支援事業のヒアリング審査（2019.07.16、松山市）

愛媛県医師不足地域における地域志向性教育のための地域医療活動に関する研究

川本龍一

生きがいデイ（2019.07.23、西予市）

脱水予防

川本龍一

生きがいデイ（2019.08.07、西予市）

熱中症について

川本龍一

ラジオ糖尿病セミナー（2018.08.15、松山市）

「糖尿病と熱中症」について

川本龍一

EDeN Web Communication 講演会（2019.08.28、西予市）

糖尿尿に関わる各種 サロゲートマーカーについて

川本龍一

生きがいデイ（2019.09.17、西予市）

生きて逝く

川本龍一

平成 30 年度 地域志向教育研究支援事業（2019.09.25、松山市）

愛媛県中・南予地域における多職種連携と地域志向性教育に関する研究

川本龍一

愛媛大学医学部基礎と臨床の融合促進プロジェクトにおける研究紹介（2019.09.26、東温市）

地域医療学講座の研究紹介

川本龍一

令和元年度在宅に向けて多職種連携に関する研修会（2019.10.19、松山市）

地域で看取る ～本人の思いを知り、寄り添うための連携とは～

川本龍一

地域医療振興協会四国ブロック支部総会（2019.10.26、高松市）

西日本豪雨を経験して 今後起こりうる災害への備え

川本龍一

NHK 松山 四国羅針盤（2019.11.07、松山市）

地域における救急医療の現状

川本龍一

第9回地域医療再生セミナー（2019.11.25、東温市）

地域医療学講座の活動報告 - 愛媛大学医学部附属病院 総合診療科 -

川本龍一

広島大学医学部：地域医療の総論から各論（2019.11.29、広島市）

地域医療マインド

川本龍一

第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム（2019.11.30、西予市）

～復興元年、もっと素敵にもっと元気に～

愛媛大学医学部附属病院が管理しているプログラムの中には、総合診療専門研修プログラムがあります。このたび、本プログラムに所属する愛媛大学医学部附属病院総合診療科（西予市立野村病院内科医師）の菊池 明日香先生が、第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウムのシンポジストとして発表されました。

この事業の概要については、シーボルトの娘であり日本初の産科女医である「楠本イネ」を顕彰し、女性医師を奨励することによって、社会における女性の活躍推進をさらに図り、地域活性化につなげていくことを目的に創設された事業です。この開催には、「西予市」「日本医師会」「愛媛県医師会」の三者が従来、主催として関わってきた経緯がみられます。

菊池先生は、自分史についてユーモアを交えながらいろいろなエピソードをお話しされました。



【座長】

川本龍一

第19回愛媛プライマリ・ケア研究会（2019.6.29、松山市）

「高齢社会における地域医療の今」

自治医科大学地域医療学講座教授 小谷 和彦先生

令和元年度愛媛県主催 地域医療夏季サマーセミナー（2019.8.17、松山市）

「医療から見たまちづくりー各参加市町の医療とまちー」

自治医科大学と愛媛大学地域枠学生

南予消化器・内分泌・糖尿病疾患懇話会（2019.09.18、宇和島市）

「糖尿病性腎症重症化予防・透析予防」

済生会松山病院院長 宮岡 弘明先生

二宮大輔

第10回日本プライマリ・ケア連合学会（2019.5.17-18、京都）

【その他】

川本龍一

医科学新入生研修会（2019.04.13、松山市野外活動センター）

四国ブロック 専攻医ポートフォリオ発表会&交流会
（2019.04.20、高知市）



第59回全国国保地域医療学会に参加して（2019.10.04-05、長崎市）

2019年10月4日～5日、長崎県長崎市 長崎ブリックホールで開催された「第59回全国国保地域医療学会」が開催され、愛媛大学医学部から地域医療に強い関心を持つ医学科の学生3名、看護学科の学生5名が教員とともに参加してきました。愛媛県国民健康保険連合会関係者の皆様には、学生の参加にあたり多くのご配慮をいただきありがとうございました。



室内合奏団定期演奏会（顧問）（2019.11.02、松山市）

講座関連の研究費

[I] 文部科学省 科学研究費

平成 30-32 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究 C）

地域医療実習での地域診断手法の導入による地域志向性の滋養に関する研究

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

1,500,000 円

令和元年度愛媛大学地域協働教育研究支援事業

愛媛県医師不足地域における地域志向性教育のための地域医療活動に関する研究

川本龍一、二宮大輔、古川 慎哉、菊池 明日香

450,000 円

事業内容

1) 地域で保健・医療・福祉（介護）活動を学ぶ実習（平成 31 年 5 月ー平成 32 年 3 月実施）

対象：医学生、参加人数 121 名（基礎配属 1 年生、地域枠 1 年生、4 年生、5 年生）

内容：西予市野村町、久万高原町、宇和島市津島町、松野町、愛南町における地域医療実習（医療や介護体験、患者や住民、現場で働く人たちとのコミュニケーションなど）を通して地域医療活動を学んだ。

役割：川本龍一、古川慎哉、二宮大輔、菊池明日香、現地の医療・介護・福祉の関係者（地域医療におけるロールモデルとして指導）

2) 第 6 回えひめ多職種連携ワークショップ（平成 31 年 3 月 4 日ー8 日実施準備をするも中止）

対象：医学生、看護学生、若手医療従事者、参加人数 18 名参加予定

内容：「多職種連携ワークショップ」はチーム医療を基盤とした地域医療を体験し、課題や改善策を検討することを目的に開催する。病気を抱える住民と一緒にデイ・ケアやデイ・サービス、医療機関への受診に同行したりすることで住民目線の多職種連携を体験したり、逆に提供する立場として医療・介護・福祉の多職種の役割を体験する実習を行う。そうした実習の後に、将来の地域医療を支える仲間と一緒に多職種連携の在り方をテーマとしたグループディスカッションを行い、課題解決のための将来構想を提案する予定であった。コロナウイルス関連により中止へ。

役割：川本龍一、二宮大輔、菊池明日香（地域医療におけるロールモデルとして指導）看護大学の教員

3) 瀬戸内や宇和海の離島健診を体験する実習（令和元年 5 月 13ー17 日実施）

対象：医学生、参加人数 6 名

内容：学生の離島実習をとして済生丸診療船に乗り、瀬戸内海の島々の健診を学んだ。健診事業を通して南予の離島（青島、大島、日振島など）における地域の高齢化やニーズ、課題を探り、地域医療活動へとつなげた。

役割：熊木天児、菊池明日香（地域医療におけるロールモデルとして指導）

4) 西予市での夏季と春季休みを利用した地域医療体験合宿（令和元年 8 月実施）

対象：医学生、参加人数 6 名（自治医大を含めて）

内容：西予市や久万高原町における地域体験合宿（地域の現状を調査、医療や介護体験、住民や現場で働く人たちとのコミュニケーションなど）を通して地域医療活動を学び、将来に向けての構想を現地のスタッフや住民を交えて討論した。

役割：川本龍一、二宮大輔、菊池明日香（地域医療におけるロールモデルとして指導）

5) 東・中・南予代表地域の多職種連携に関するワークショップ（令和元年 8 月 17 日実施）

対象：医学生、参加人数 40 名

内容：県内の市町村行政担当者と公立病院の院長（新居浜市、大洲市、愛南町）からは地域の魅力や現状に関する発表、卒後県内で研修を受けている地域枠学生や自治医大の卒業生からは研修に関する報告がなされた。その後、参加者間での交流の後に、各地域のグループに分かれ、地域診断と将来構想に関するワークショップが行われた。参加者からは、初めて知る地域もあり、愛媛の地域医療に貢献したいという動機づけになったとの意見が多く聞かれた。

役割：川本龍一、熊木天児、二宮大輔、菊池明日香（地域医療におけるロールモデルとして指導）

②達成度

2)のみコロナウイルス関連により開催が見送られたが、それ以外はいずれもほぼ計画通り実施された。

③成果発表

第 10 回日本プライマリ・ケア連合学会（2019.5.17-18、京都）

医学生の田舎での多職種連携活動と 地域医療への思いに及ぼす研究

川本龍一、二宮大輔、赤瀬太一、菊池明日香、熊木天児、大塚伸之

第 19 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2019.11.2-3、高松市）

医学生における医療ドラマの視聴習慣の検討

山本 真優、谷本 壮、越智 晴永、山口 真史、菊池 明日香、二宮 大輔、古川 慎哉、熊木 天児、川本 龍一

④今後の展開

- ・内容・成果はさらに論文として投稿予定である。
- ・愛媛大学地域協働教育研究支援事業（令和 2 年度）計画として「愛媛県医師不足地域における地域包括ケアを学ぶ活動」を申請準備中であり、引き続き地域志向性教育のための地域医療実習を展開する予定である。
- ・令和 2 年の科研費申請として「地域志向性、全人的医療を提供する総合診療の滋養に関する研究」を菊池明日香、川本龍一の共同研究として申請している。

[IV]その他

研究助成費

財団法人地域社会振興財団

令和元年度山間地域における生活習慣病に関する研究

川本龍一、大塚伸之、二宮大輔、熊木天児

550,000 円

協力

糖尿病重症化予防事業

川本龍一

その他

【教育活動】

地域医療学講座地域サテライトセンターでの実績

- 初期研修医（地域医療）2019年度：10名
- 後期研修医2019年度（地域医療・総合医後期研修コース）：3名

【授賞】

愛媛大学第三内科黄蘭会 恩地森一賞（2019.07.13、東温市）受賞論文

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Senzaki K, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T

Baseline and changes in serum uric acid independently predict 11-year incidence of metabolic syndrome among community-dwelling women.

J Endocrinol Invest 41(8): 959-968, 2018.



【委員会活動】

学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010年度～
- 地域医療支援センター組織運営委員会（川本）：2011年度～
- 医学専攻教務委員会（川本）：2011年度～
- 地域医療推進委員会（川本）：2012年度～

学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999年度～
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999年度～
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005年度～
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005年度～
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007年度～
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009年度～
- 西予市立野村病院運営委員会（川本）：2009年度～
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度～
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度～
- 済生会今治病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2017年度～
- 西予市地域医療対策検討委員会（川本）：2017年6月～
- 西予市立病院改革推進委員会（川本）：2017年8月～

マスコミ取材

エフナンラジオ：糖尿病セミナー 糖尿病と熱中症について（2019.08.15、FM 愛媛、松山市）



四国羅針盤にコメンテーターとして出演（2019.11.9、NHK 松山、松山市）



編集後記

愛媛大学に地域医療学講座が設立され 11 年目を迎えました。今年度からは西予市立野村病院と久万高原町立病院の両施設においてすべての学生が各施設 5 日間ずつ実習を受けています。実習を担当するスタッフにとっては業務が増えるため、大変かと思われそうですが、地域を知ってもらう絶好のチャンスと考えています。超高齢社会を迎えるにあたり、いずれの地域でも様々な取り組みがなされており、将来の地域医療を担う学生にとっては重要な体験実習となっています。皆様におかれましても未来の地域医療発展のために、学生実習および研修医育成に引き続きご協力および温かいご支援を賜りたい次第です。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当

愛媛県寄附講座

令和元年度事業報告書

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

愛媛大学附属病院総合診療科

令和 2 年 6 月発行

問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 (代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地 TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地 TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121